

古代史教養講座 創立1995

松戸市常盤平 2-18-9

〒270-2261 電話 (047)384-5728 <http://www.geocities.jp/kdil1995>
振込銀行口座 三井住友銀行 飯田橋支店 普通預金 6355550 口座名・古代史教養講座**本ニュース304号は5～6月号です。****当会ゼミは5、6月も休講とします****<ワクチン接種情報>**

- 1、米ファイザー社製ワクチン接種が3月31日時点で医療従事者(480万人)向け100万人に達した。副反応(治験対象者2万人=男性34%・女性66%)は、92%の人に疼痛が出たが3日後に回復。尚、重いアレルギー反応の「アナフィラキシー」は、58万人中47例(女性9割)あったが全員軽快した(厚労省調査)。高齢者(3600万人)向けにも同社のワクチンが接種される。
- 2、現在同社製ワクチンの確保量は3月29日到着便で累計550万回分(2回接種で275万人分)である。一方、4月2日の記者会見で、河野太郎ワクチン接種担当相は、ワクチンが5月下旬までに1800万人分供給可能と発表した。又、6月末までに1億回分(5千万人分)以上確保できるとの見通しを明らかにしている。
- 3、高齢者向けのワクチン接種は4月12日より開始予定である。配布完了するのは6月一杯かかる(厚労省)。従って、当会の会員がワクチン接種を終えて、ゼミに参加できる環境になる時期は、7月以降となるだろう。

<コロナ治療薬>

1、イベルメクチン

イベルメクチンは2015年ノーベル医学生理学賞を受賞した日本の大村智博士(北里大学特別荣誉教授)が1970年代に静岡県で採取した土壌から発見した「放線菌」と呼ばれる新種の細菌で開発した寄生虫感染症の治療薬として世界的に知られている。イベルメクチンは1970年代に開発された駆虫剤として、頭ジラミなどの寄生虫感染治療として1987年以降、37億人以上の人々に安価で投与されている。

①イベルメクチンは、新型コロナ治療薬として、英米で広く使用されており有効性と安全性が証明されている。アフリカでは、寄生虫感染症薬として普及しており、結核としてこの薬のおかげで新型コロナの感染爆発が抑制されている。

②米国の新型コロナ救命治療最前線同盟のピーエール コリー会長は「イベルメクチンは新型コロナウイルスに対する奇跡の薬」とコメント。現在、イベルメクチンは27か国で臨床試験が行われ、南アフリカ、スロバキア、ペルー、メキシコなど16か国の国と地域で公式に治療に使用されている。

③この「イベルメクチン」が新型コロナウイルス致死率を最大80%まで減少させるとの主張が提起された。1月4日英国「デイリーメール」によると英国リバプール大学のウイルス専門学者アンドリュー・ヒル博士が全体臨床試験資料を総合分析した結果、イベルメクチンが投与された患者573人の中では8人、プラセボ(偽薬)が投与された患者510人の中では44人が死亡したことがわかった。イベルメクチンを新型コロナウイルス治療薬として研究している科学者らは、この薬が新型コロナウイルスのライフサイクルを妨害するものと見ている。ヒル博士は「イベルメクチンは患者の身体で新型コロナウイルスが除去されるのにかかる時間を大きく短縮させることがわかった」と説明した。このような臨床試験はエジプトでも行われており、軽症、重症患者共に有効だった。

④上記を踏まえて、3月5日尾崎治夫東京都医師会長は、自宅待機・療養で有効な治療が施されていない感染者に対して、医師のイベルメクチン投薬(経口)の緊急使用許可を訴えた。

2、クロミプラミン

3月17日に、九州大学の西田基宏教授が、50年前から使用されている抗うつ薬クロミプラミンが新型コロナウイルスがヒトの細胞へ侵入するのを防ぐ効果があるという研究成果を発表した、又、感染後に投与することでもウイルスの増殖抑制効果があることも確認した。更に、既に新型コロナ治療薬として承認されているレムデシビルと併用することで、より強い治療効果があるという。今後、動物実験で有効性と安全性を検証し、迅速な実用化を目指すという。以上。

東日本大震災と福島第1原発事故から10年

—齊藤 潔会員記—

本年3月11日は、日本の観測史上最大の東日本大震災が起きてから丸10年である。以下、史上最大の原発事故を起こした東京電力福島第1原発を検証する。

1、東日本大震災は、2011年3月11日午後2時26分に宮城県牡鹿半島沖130kmの深さ30kmの海底を震源として起きた大地震である。規模はM9.0、最大震度7で、津波は太平洋沿岸に最大21mの高さに及んだ。

①この地震による死者と行方不明者は22200名(死者の90%は津波による水死)で、その範囲は12都道県に及んだ。建物は、激震、大津波、液状化、火災等で損壊し、全半壊41万戸、一部損壊73万戸、火災・浸水12千戸だった。

②この地震によるもう一つの災害は、全国民と世界を震撼させた福島第1原子力発電所の事故である。

福島第1原発(当時1~3号機が稼働中。4~6号機は点検中)は、震度6強の激震動と14~15mの大津波によって原子炉建屋と全電源が破壊されて、注水と冷却が不可能となり炉心溶融(メルトダウン=圧力容器の底が抜ける)と水素爆発事故が起きたのである。この爆発事故によって大量の放射性物質が放出された。

2、福島第1原発事故の現在

①事故内容:炉心溶融が3基(1、2、3号機)と、水素爆発も3基(1、3、4号機)で起きた。燃料デブリ(溶けた核燃料と炉心構造物の塊)は880トンと推定されている。

②廃炉への道は汚染水処理、使用済み核燃料と燃料デブリの取り出し、最後に廃炉で生ずる全放射性廃棄物(数百万トン)の処分と続く長く険しい道である。

③汚染処理水:燃料デブリを冷やす水と原子炉建屋内に入り込んだ地下水等は共に放射性物質で汚染され、その水が毎日140トン発生している。この汚染水を汚染処理施設(ALPS)で処理して敷地内のタンクに貯蔵している。タンク全容量137万トンに対して、現在124万トンの処理水が貯蔵されているが、2022年度末で上限に達する。又、トリチウムは除去できていない。

④使用済み核燃料:3号機と4号機分は敷地内の共用プールに搬出したが、1号機と2号機分は未着手で、高線量の為、取り出しには相当な年数がかかる。

⑤燃料デブリ:廃炉の最大ポイントは1~3号機内に溶け落ちた燃料デブリの取り出しである。燃料デブリの放射線量は1時間で人が死ぬレベルなので現在でも全く

の手つかず状態である。ある原子力科学者は、現在の技術ではデブリの処理は不可能で、チェルノブイリ原発の事故処理のように、破壊された原子炉共、「石棺」(鉄とコンクリートの構造物)で覆うしかないと言う。石棺内で放射能の減衰を待つというわけだ。

⑥事故処理費用は22兆円の試算だった(2016年時点・経済産業省)が、現在の試算では81兆円に上る(日本経済研究センター)。尚、原発事故を引き受ける損害保険会社は皆無である。

3、原発の「安全神話」と事故は「想定外」という言い訳

①日本では原発には安全神話=事故は起きないと信じられていたという。しかし、1979年に米国のスリーマイル島原発(炉心溶融せず)と1986年にソ連のチェルノブイリ原発(炉心溶融1基)で大事故が起きている。この時点で安全神話の根拠が失われていた。

②地震の規模が「想定外」という主張がある。日本が地震国であり、歴史上もこの地域は869年に陸奥国に貞観大地震(『日本三大実録』)が発生、激震(推定M8.5)と大津波が記録されている。1896年には岩手県釜石東方沖 200kmを震源とする明治三陸大地震(M8.2~8.5)が起き、激震と大津波(38.2m)が起きて東北太平洋沿岸は大被害にあった。「安全神話」と「想定外」は歴史と科学を無視した無責任な主張である。

4、原発を立地した三電力会社の津波対策

①東北電力は1980年の女川原発(宮城県・1984年稼働)の建設にあたり貞観地震クラスの震度と大津波を想定して、海拔15mの場所に建設した。今回の地震では地盤が1m沈下し、津波は13mに達し薄氷を踏む思いだったが、電源は機能し大惨事は免れた。

②日本原子力発電東海第2原発は、茨城県の津波再評価を受けて2年前から対策工事(防波壁6.1m)を行い、東日本大地震直前に完成した。地震時の津波は5.4mに達し辛うじて大惨事を免れた。

③一方、東京電力福島第一原発(1967年着工)は、1~4号機が海拔10m、5~6号機は13mの地点に建設した。今回襲来した大津波は14~5mに達した。今回の地震前に、大津波対策の検討が社内で提示されていたにも拘らず、経営側がこれを無視して、津波対策を行わず今回の大惨事となったのである。これは天災ではなく、まさしく人災である。

5、東北3県の「復興」に関する世論調査(NHK3月)

岩手県:復興完了 12.7%、進んでいる 32.2%、遅れている 49.2%、全く進んでいない 2.4%

宮城県:復興完了 16.9%、進んでいる 42.0%、
遅れている 34.6%、全く進んでいない 3.3%

福島県:復興完了 4.2%、進んでいる 24.4%、
遅れている 47.1%、全く進んでいない 20.4%

福島県民の復興感は 28%である。事故後に16万人
が故郷を追われ、その内数万人が今も避難生活にある。
復興庁は、更に 10年間延長となった。 以上。

梁書倭伝の読み方—永井輝雄会員記—

古代史ニュース1~2月合併号で、槌田鉄男さんは、
文章の中間あたりで、【266年の朝貢を梁書でみると『また卑彌呼の宗女・台与を王にした、その後再び男の王が立って並んで中国の爵位を得た』とある。卑彌呼の後を継いだ台与と共に男王が並んで爵位を得ているのだ。この時の男王が誰だったのか昔から議論されてきた。266年時点では纏向遺跡は誕生していた。そうすると使者は邪馬台国の女王・台与と纏向の男王の2人の使者だったとすれば、全て辻褃が合う。】と書かれています。

1. 梁書倭伝を読んでみます。

①「266年の朝貢を梁書でみると」とありますが、梁書倭伝には266年の朝貢は書かれていません。266年の倭人の朝貢が書かれているのは『晋書』です。

a.『晋書』武帝紀に、「(泰始二年)十一月己卯 倭人來獻方物」(266年11月倭人がやってきて地方の産物を献上した)とあるのと、

b.『晋書』列伝第六十七「四夷伝」倭人の条に、「其女王遣使至帶方朝見、其後貢聘不絶。及文帝作相、又數至。泰始初、遣使重譯入貢」(倭の女王は使者を派遣して帶方郡に来て朝見した。その後貢物・贈物が絶えることはなかった。文帝(司馬昭)が魏の丞相(宰相)になると、何回となくやってきた。西晋の泰始(265年12月-274年)の初めには使者・通訳を派遣し貢物を持ってやってきた)とあるのとの2つだと思います。

②「梁書倭伝」の該当箇所を原文では、次のようになっています。

「至魏景初三年 公孫淵誅後 卑彌呼始遣使朝貢 魏以爲親魏[倭]王 假金印紫綬。

正始中卑彌呼死 更立男王 國中不服 更相誅殺 復立卑彌呼宗女臺與爲王。

其後復立男王並受中國爵命。晉安帝時 有倭王贊。贊死立弟彌 彌死立子濟 濟死立子興 興死立弟武。齊建元中 除武[使]持節、[都]督倭新羅任那伽羅秦韓慕韓六國諸軍事、鎮東大將軍。高祖即位、進武[軍]號征東將軍。」

③これを、山尾幸久氏は次のように現代語訳していま

す(『東アジア民族史 1 正史東夷伝』1974 東洋文庫)。
(〔 〕は山尾氏が補ったもの。)

【〔曹〕魏の景初三年(239)になって、公孫淵が誅滅された後、初めて、卑彌呼は使人を遣わして朝貢した。魏〔の廢帝の曹芳〕は〔彼女を〕親魏〔倭〕王となし、金印紫綬を授けた。

正始年中(240-248)に卑彌呼が死んだので、改めてまた男王を立てたが、國中これに服さず、またまた互いに殺し合いになった。そこでふたたび卑彌呼と同じ族団の女性臺與を王に擁立した。

臺與の後には再度男王を立て、みな中国の爵命を受けた。〔すなわち東〕晋の安帝の治世(396-418)には倭王の贊がいた。贊が死ぬと弟の彌を立てた。彌が死ぬと子の濟を立てた。濟が死ぬと子の興を立てた。興が死ぬと弟の武を立てた。〔南〕齊の〔太祖高帝の〕建元年中(479-482)、武を〔使〕持節・〔都〕督倭新羅任那伽羅秦韓慕韓六國諸軍事・鎮東大將軍に除した。梁の高祖(武帝、在位 502-549)が即位し、武の〔軍〕号を征東將軍に進めた。】

山尾氏は、「並」を「みな」と訳しています。

2. 「其後復立男王並受中國爵命」をどう読むか。

①槌田さんは、「復立卑彌呼宗女臺與爲王。其後復立男王並受中國爵命」を『また卑彌呼の宗女・台与を王にした、その後再び男の王が立って並んで中国の爵位を得た』と訳されておられますが、私は違和感をおぼえました。「男の王が立って並んで(立男王並)」あるいは「並んで中国の爵位を得た(並受中國爵命)」ということがどんなことなのかよく分かりません。

②槌田さんは「並」を動詞と考えていらっしゃるようですが、私は、そうではないと思います。

「立男王」と「受中國爵命」との間に挟まれた「並」は、藤堂明保氏の「学研 漢和大辞典」にあるように、動詞の他に、接続詞や副詞の使い方があります。

「並」①(動・形)ならぶ:ならんでいる。また、そのさま。

②(接続)ならびに:「A並B」とは、「AおよびB」の意。また文章の前後二節の間に用い、それと同様に、それと同時に、の意をあらわすことば。

③(副)ならびに:みな一様に接続詞の「並」には、「文章の前後二節の間に用い、それと同様に、それと同時に、の意をあらわすことば」として使う使い方があると書いてあります。「立男王」並「受中國爵命」は、(台与の後には)男王を立てて、それと同時に中国の爵命も受けたという意味になります。

「並」を副詞と考えた場合、台与の後に立った男王は、「みな一様に」中国の爵命を受けたという意味になります。

③『また卑弥呼の宗女・台与を王にした、その後再び男の王が立って並んで中国の爵位を得た』と『卑弥呼の後を継いだ台与と共に男王が並んで爵位を得ている』とは同じではありません。内容が変わっています。

『その後再び男の王が立って(其後復立男王)』は「台与を王にした後、台与が死亡したか退位したかで王位が空席だったので、再び男の王が即位した」という意味であり、「復立卑弥呼宗女臺與爲王。其後復立男王並受中國爵命」からは、「台与と共に男王が並んで爵位を得ている」とは読めません。

④梁書の作者のもとには、「復立卑弥呼宗女臺與爲王」と「晋安帝時 有倭王贊」から始まる「倭の五王のデータ」だけがあったのです。晋書と梁書は唐の時代にできたのですが、梁書の方が先にできたので、梁書の作者は晋書の「266年11月の倭人の朝貢の話」は知らなかったのだと思います。「正始中卑弥呼死、復立卑弥呼宗女臺與爲王」と「晋安帝時 有倭王贊」との隔たった二つの時代を繋げるために、梁書の作者は「其後復立男王並受中國爵命」の文章をつっこんだのだと思います。私の理解ですが。 以上

浅井壮一郎会員著「戦意の研究 明治維新」を

読んで 一清徳則雄会員記一

この本を読むと、従来の自分の明治観が大きく変わることを実感する。

何故日本だけがアジアで植民地化されることなく独立を保ち、しかも急速に近代化できたのかをクリアに理解できる。学校で習う歴史では、日本が明治維新を境に一気に近代化し、欧米の模倣を、国を挙げて行なっただけと思いがちであるが、実態は大いに違っていたことが解る。日本は、既に江戸期の吉宗の享保の改革頃から資本主義経済への道を歩み出していた。個人の私有財産の保証や公平な訴訟が確立されていて、百姓の訴訟や一揆はマンガやドラマで描かれるような理不尽なものではなかった。訴訟の数は随分多かったが、その理由は訴訟すればキチンと公正に審理されたからだという。借金なども大名といえどもみだりに踏み倒すようなことはできなかった。

高校の日本史では、幕府は貨幣を改鑄して品位を下げることで暴利をむさぼったように習った。歴史の先生は出目ばかり取っていたと言って我々生徒の笑いをさそった。しかし、実態は当時の市場経済において、貨幣供給量の増加への強い要求があったことが大きな要因の一つであった。改鑄して貨幣流通量を増やすこと

で、経済は大いに回り、インフレは起きなかった。よく知られている堂島の米相場の先物取引はヨーロッパより100年以上早かった。一方、松平定信の寛政の改革は、貨幣の品位を高め、貨幣流通量を抑えたデフレ政策であったが、失政に終わった。

これらの江戸期の経験を見ると、現在の日本の政府や日銀の政策と同様の苦労を既に300年近く前から経験していたことが解るし、当時の幕府の官僚たちや国民は、かなりレベルの高い貨幣経済、資本主義経済を既に経験していたことが理解できる。ご存じのように、明治政府には多数の旧幕府官僚が仕えていたことは知られている。

吉宗の享保の改革は、教科書でさらっと習う以上に大したもの、吉宗という人は、近代化への先鞭を付けた大偉人だったと言えよう。大岡忠相がモデルと言われる遠山の金さんのドラマは今も人気だが、それは当時の明るく活気に満ちた時代を庶民が長く巷間に伝えて来たからだろうと思われる。

著者が強調しているように、日本人は江戸期を通じて、高いモラルと公の概念を育んできたことで、皆無とは言わないが汚職が比較的少なく、廉潔な国民性を持つようになったと言えよう。海音寺潮五郎氏も、日本の武士道は戦国期のそれから江戸中期に変わっていったと言っているが、相通ずるものがある。

幕末における米国のペリー来航計画なども、幕府は「別段オランダ風説書」によって数年前から知っていて、その対策を十分に研究していた。ちまたに信じられているような屈辱外交ではなく、ペリー達に対して堂々の論陣を張り、逆にペリーがやり込められ、冷や汗をかかされたと言う。この話は、最近のNHKスペシャルでも少しやっていた。

また、長州の四国連合艦隊との局地戦役においても、日本がコテンパンにやられたように言われていたが、実際は欧米の死傷者の数は日本と同じ程度か、薩英戦争では英国の死傷者がずっと多かった。彼等は上陸して占領することを諦めたし、日本の征服も難しいということを実戦で理解した。しかも、武器では日本は彼らの武器に比して、はるかに劣っていたにも拘わらずである。

このことは、アヘン戦争において英国海兵隊1400名に対して、迎え撃った清国兵2000名は惨敗。広州にいた4万の清兵は、全く戦おうとはせず、逆に付近の住民を略奪しただけであった、という史実と較べると実に興味深いものがある。 了。